

令和4年度 学校評価書 (計画段階 ・ 実施段階)

福岡県立小倉南高等学校

9

自己評価					評価(総合)		学校関係者評価		
学校運営計画 (4月)					評価(総合)		自己評価は		
学校運営方針		歴史と伝統、南高PRIDEを継承し、志を高く掲げ、自己実現を目指す、心身ともに健全な生徒の育成を推進する。また、グローバル化社会に貢献できる、本質を究められる学力を培い、信頼度の高い学校文化を構築する。			評価(総合)		A		
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		評価(総合)		A	
<p>コロナ禍における臨時休業や学校行事の中止・縮小等の制約を受けながらも、感染症対策を徹底し、学校での学びを大切に教育活動を実践した。ICT環境の整備に伴い、授業や学校行事等の内容が劇的に変化し成果があった。また、本校の強みである、高みを目指す自己実現を図る姿勢の育成により、着実な進路実績に結びつけることができた。</p> <p>新学習指導要領および教育改革への円滑な対応を図るため、教育課程や教務内規の改定を行う等カリキュラム・マネジメントを推進した。また、希望制朝課外を廃止し、校時の見直しを行ったことで、メリハリのある学校生活への改善を進めることができた。</p> <p>今年度は校内研修を充実させることにより観点別評価を含め新学習指導要領への対応を更に推進する。また、お互いに学びあう活気ある教職員集団を目指し組織力を高める。</p>		<p>【教育方針】 「鍛え、ほめ、生徒の可能性を伸ばす」</p> <p>【重点目標】 「自主」「創造」「親愛」の校訓のもと、変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の作り手となることのできる生徒の育成をめざす。 学校の新しい生活様式を踏まえたくてICTも活用しながら、様々な体験活動や他者と協働した探究的な学びの機会を設定し「思考力・判断力・表現力」を高める。 凡事徹底を日々の教育活動の中で積み上げていくことにより全人的な成長を促し、互いの良さや可能性を發揮できる人権尊重の精神の涵養を図る。 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、実社会での課題解決に生かしていくための教科等横断的な学びに取り組む。 教師力の向上を図り「チーム南高」としての学校力を高めることにより学校ブランド化を強化し、生徒・保護者の期待に応え、地域に愛される学校として教育実践に取り組んでいく。</p>		<p>「社会に開かれた教育課程」を実現するためのカリキュラム・マネジメント及び、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進し、観点別評価による学習評価の充実を図る。</p> <p>「時を守り、場を清め、礼を正す」を励行し、特別活動・部活動やボランティア活動等の多様な他者との関わり合いをとおして逞しい人間力を育成し、いじめ・暴力・差別等を許さない心を育む。</p> <p>「ネオ・サザンクロスプラン」を軸に、高い進路希望を持たせ確実に目標を実現させるための教育活動を計画的に行い、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるキャリア教育を実践する。</p> <p>組織的・効果的に広報活動を行い、本校の魅力発信に努め、安定的な志願者数を確保できるよう、工夫改善を重ねていく。</p>		評価(総合)		A	
部分学・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部	学務課	志ある主体的学習態度の育成	「社会に開かれた教育課程」を実現するためのカリキュラム・マネジメントを推進する。	進路希望に応じた類型を設置し、学習理解度に合わせたクラス編成を行うことにより、効果的な学習指導を展開する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は1クラス増により成績層や進路希望も幅広くなる可能性がある。習熟度別授業やクラス編成がさらに効果を発揮できるよう、授業評価も含め、学習指導の質の向上を図る。 ・観点別評価については、全教員の理解のもと評価方法をさらに分析、検討していくことが必要である。ICTの活用は年々進んでいる。主体的な学びや授業改善につながるような活用であることを心がけ、次年度も継続して取り組んでいく。 ・今年度も様々な取り組みを行い、図書館を利用する生徒が増えた。今後も継続した活動を行っていくことが重要である。 ・新型コロナウイルスの影響もまだ続いてはいるが、以前よりも安易に欠席や遅刻をする生徒が増加傾向にある。出席停止が多くなっているのも気がかりである。 ・ライフレポートを効果的に活用していくには教員の負担も伴うが、担任副担任協力のもと引き続きお願いしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席者がオンラインでの授業を希望すれば、授業に参加できることは新型コロナウイルス感染症がもたらしたプラスの遺産なので、今後も対面授業の良さを取り入れたハイブリッドな授業展開を更に推進するよう期待している。 ・図書館では、新刊本や生徒に人気の図書が入荷されており蔵書も多いと聞いている。充実した図書館の利用環境を是非整えていただきたい。
		1 出席率 1年：99.5% 2年：99.0% 3年：99.0% 全体：99.2%	他者と協働した探究的な学びの機会を設定し「思考力・判断力・表現力」を高める。	ICTを積極的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。	A				
		2 自宅学習時間 (1日平均) 1年：120分 2年：140分 3年：160分	「図書館だより」や「新刊案内」の発行や朝読書週間などの取り組みを行い、読書による思考力の伸長を図る。	「図書館だより」や「新刊案内」の発行や朝読書週間などの取り組みを行い、読書による思考力の伸長を図る。	A				
		3 図書貸出冊数 7冊/人	教科指導の充実と学力の向上を目指す。	授業を教科指導と生徒指導の最適の場と捉え、緊張感のある授業を展開し、知的関心を高め、主体的学習態度を育てる教育活動を計画的に行う。	A				
教務部	広報・庶務課	「チーム南高」としての学校力向上	組織的・効果的に広報活動を行い、本校の魅力を広く発信する。	学校経営企画会議の計画方針に基づき、学校パンフレットやポスターの内容を充実させ、広報活動に貢献する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・広報業務について、特に、生徒募集に関する各広報物は学校の魅力を伝えるための重要な手段であるため、企画や制作について、これからもより組織的に協議を重ね、多くの様々な視点により作業を進めていかなければならないと考える。 ・庶務業務について、校内における各取り組みについては、それぞれの係り分担を中心に、責任をもって果たされているので、今後も引継ぎを的確に行い、庶務業務が滞らないよう取り組んでいきたい。 ・PTA活動について、これまでの制限を解き、以前のかたちに戻していかなければならないと考えるが、見直しをしながら、より適切なり方を築くという視点で新たな活動のかたちを構築していきたい。 ・新1年生のクラス増に伴い、職員数も増えると考えられるので、各学年との協議を早めに行いながら、職員室環境の整備に取り組むたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度の生徒募集が定員を割ってしまったのは、誠に残念である。志願者が少ない中学校への対策や進路面以外の学校の魅力を知ってもらうことが必要だと思われる。また、地域へのアピールを推進していくことが学校の活性化につながると思われる。
		1 本校の魅力を発信する広報活動	各分掌と協力して、学校要覧、学校ホームページ用案内、新入生のしおり等の内容を充実させる。	2ヶ月分の行事予定表を毎月中旬までに作成配付することにより、見直しを持った学校運営に寄与する。各種行事・儀式等の円滑な運営のため、企画・立案・調整に努める。	A				
		2 円滑な行事運営	PTA活動の活性化(総務会・理事会年4回実施)	PTA総会、総務会(年4回程度実施)、理事会(総務会后)等により、保護者等との相互理解を深める。	A				
		3 4 学校(職員室)施設管理	職員室等の衛生的な環境を維持し、働きやすい職場環境にする。	職員室全体の環境整備を毎月末には行い、職員に衛生的な環境維持への協力を求める。	A				
			年度末に職員室の机、椅子、書籍ロッカー、更衣室ロッカー、靴箱の調整を行い、鍵を管理する。	A					

部分年・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題	項目ごとの評価
生徒部	指導課	遅しい人間力の育成 1 基本的な生活習慣目標 授業出席率99.3%以上 2 P T A合同「挨拶運動」 各学期3日間実施 3 部活動目標 ア 加入率85%以上 イ 県大会出場 運動部15以上 文化部5以上 ウ 九州大会3以上 エ 全国大会2以上 (以上団体個人とも延べ数)	基本的な生活習慣を確立し、 社会規範・校則遵守の精神 の涵養を図る。	凡事徹底を日々の学校生活や特別活動において実践し、自己指導能力の育成に努める。すべての学校活動において社会人として通用する教育活動をおこなう。	A	A	・校則については、生徒の意見を取り入れ、改訂が必要なものは積極的に検討する。その方法についても生徒部で議論しながら進めていく。本校の实情に合わせて検討し、教育的に説明ができるよう職員のコンセンサスを取るよう努めていく。来年度から校則をHPで公開する準備を進めていく。 ・一方で、決められたルール。例えば8時昇降口通過が守れていない生徒等が見られるので、決められたことは守るよう指導を継続していく。 ・コロナ禍が長く続き、安易に欠席する生徒が多くなった。大きないじめ問題は起きてないが、行事など学校活動が制限され、コミュニケーションが上手くできない生徒も見受けられる。 ・その中で厳しくても頑張っていこうという生徒を学校行事等の活動の中で育てていき、生徒の進路実現の一助としていきたい。	B
				「時を守り、場を清め、礼を正す」を励行し、生活指導の徹底を図る。また、校外において誰もが安全安心に過ごすことができるよう規範意識を育成する。	B			
				特別活動・部活動やボランティア活動等の多様な他者との関わり合いをとおして、各自の果たすべき役割を認識し、活動の活性化を図ることに より、遅しい人間力を育成する。	B			
				学校の新しい生活様式を踏まえたうえで学校行事の見直しを行い、内容を充実させ、南高生としての帰属意識を高める。また、友人と協力し互いの良さを発揮できる人権尊重の精神を育む。	B			
				部活動紹介ビデオを作成し、早期に活動内容を新入生に周知徹底することにより、部活動加入率・活動意欲の向上を図り、部活動の活性化につなげる。	A			
	保健安全課	学校の新しい生活様式を踏まえた保健安全の推進 1 保健室利用者の把握と健康管理 2 保健だより定期的発行(年間10回) 3 環境美化活動の推進及び掃除の徹底 4 生徒情報把握・情報の確認、スクールカウンセラー(SC)の活用等 生徒支援の推進 5 診断生徒の支援計画作成率100%	保健室利用者を把握し、関係職員との連携を密にとる。個人の健康のみならず 集団の健康について考える意識を育てる。	保健室利用状況を関係職員で情報共有し、生徒支援に役立てる。	A	A	・保健室利用者の情報共有は養護教諭と担任(副任)で連携を取り、生徒の状況把握をしっかりと継続してしていきたい。 ・生徒支援に関しては、困り感のある生徒について「特別支援チーム」を立ち上げ協議したり、SCに繋げたり解決を図った。ただ、担任等がSCに頼らずに普段からそのような生徒に対応できるよう、事例研究を取り入れて年代別に分けた研修を行い、教員のスキルを高めていきたい。 ・清掃活動は生徒への初期指導を徹底し、生徒が自ら率先して清掃する体制を整え、校内美化の向上に努めていきたい。 ・コロナが5月に5類へ移行する方向性が示されているが、食事後の消毒については引き続き継続していきたい。	A
				保健委員会が毎月1回発行する保健だより等により、心身の健康に関する意識を高める。また生徒が「保健だより」の作成に関わることで生徒の意識を高める。	A			
				日常の清掃活動を集中して行い、校内施設の安全管理に努め、環境衛生や環境美化の意識を高める。	A			
				日々の清掃活動を通して、環境衛生に関して考えさせ、美化意識を向上させる。定例の美化委員会を実施し、活動を活性化する。	B			
				教育相談活動を積極的に推進し、生徒・保護者・担任・スクールカウンセラー(SC)や専門機関との連携を密に取り、生徒支援活動を充実させる。	A			
進路部	キャリア教育課	1 学年(1月進研) 総合3教科 50以上140名以上 2 学年(1月進研) 総合3教科 50以上120名以上 3 学年(進学結果) ・国公立大合格80人以上(うち総合型・学校推薦型選抜45人以上) ・共通テスト受験率85%以上(うち二次(個別)試験受験70%以上) ・共通テスト得点率 文系3教科3科目65%以上、6教科7科目55.5%以上 理系5教科7科目52.0%以上 ・国公立大学現役進学率40%以上	・進路意識の確立 生徒、保護者、教員の共通認識による、適正な進路希望の早期確立を図る。	大学、企業、地域との連携によるキャリア教育を各学年適宜実施することで、自らの進路実現に関して自己実現を図る姿勢を育成する。 3学年保護者対象の進路説明会を実施し生徒の進路実現に向けての支援体制を整備する。	A	A	・早期から進路の視野を広げさせ、職業観の育成を行い、進路の方向性を持たせる進路指導が必要。 ・サマースクールやウインタースクールの内容の見直し。 1, 2年生は課外授業がなく演習時間の確保についてはスタサブやクロムブックの活用等で教科、学年と連携し個人学習を充実させる。 ・各学年の学力の養成。特に上位層のさらなる学力向上と下位層への指導に努める。模試の効果的活用として、振り返りを行い各生徒が主体的に学習に取り組むように指導を行う。 ・二次(個別)試験に対応できる学力の育成として教科指導力の向上をはかり課外、土曜講座をさらに充実させる。 スタディサプリ・イングリッシュの見直し。 ・分掌内での連携を密にして組織的に取り組む。	A
			・進学体制の確立 3年間を通じた進学指導を実践し、希望進路の実現を目指す。	ネオ・サザンクロスプランを軸として夏期・秋期・冬期に体験的なキャリア教育活動や集団学習会・補講授業を実施し、進路意識の高揚と学習指導の充実による学力向上に取り組む。	A			
			・教科指導体制の確立 進路実現への実力養成を目的とした教科指導計画の作成とその実践を図る。	大学入学共通テストまでは全国の国公立大学に受験に対応できるように、理系は5教科7科目、文系は6教科7科目の実力養成を目指す。外部模試の成績上位者を掲示し、進路意識の高揚と学習意欲の向上を目指す。	B			
	支援課	1 支援が必要な生徒の修学保障と進路保障の実現 2 就学・就労保障のための支援体制の構築 3 支援金、奨学金等を利用した生徒の進路支援	校外内での支援の連携を効果的に図る。 外部機関との連携により生徒に還元できる情報を収集する。 経済的状況を把握するために事務室と連携し、家庭の状況を理解する。	経済的・個別的な課題を抱えた生徒の支援を行い、確かな修学・進路保障を図る。生徒の修学困難な理由を学年と連携して早期に把握し、その課題解決のための手段を講じる。	A	A	・生徒一人ひとりがかけがえのない存在であることを認識し、他者への思いやりを持った行動ができるよう継続的に指導をお願いしたい。 ・就職、公務員希望生徒の進路保障を進路実現に向けた丁寧な情報の提供など、個に応じた指導、支援に努める。 ・奨学金の活用については申込みや手続き等を、生徒及び保護者に理解させ、円滑にすすめる。	A
				就職、公務員希望者の進路実現達成のための支援を図る。外部機関との連携を通じて適正な選考が行われるように就学・就労支援に取り組む。	A			
				日本学生支援機構など奨学金の情報を、効果的に活用できるように取り組む。また、支援金や給付金については事務室と連携して確実に取り組む。	B			

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
研修部	研修課	教師力の向上 1 職員研修会・新転任者研修会等の計画的実施運営 2 若年教員研修・中堅教諭等資質向上研修・エキスパート教員研修の実施と充実 3 研究紀要作成・教育実習担当	校内・外研修体制の充実を図り、職員研修の推進により教育活動の活性化に取り組む。	新転任者オリエンテーションの計画・打ち合わせ・実施を行い、新転任者が円滑に業務を進められるようサポートする。 若年教員研修を本校の教育活動を基本とし、より充実した研修となるよう計画・実施する。 多くの職員の授業を参観することにより、ICTの活用やアクティブラーニングなど先進的な取り組みを授業改善に役立てられるよう、授業参観週間を計画する。 教育実習生に対する指導の効率化と、実習担当教員の時間的負担軽減を図る。	A A B B	A	・新転任者オリエンテーションでは、必要最小限の業務手順を習得してもらうことはできている。新転任者がすぐに中核的な業務にあたることのできる仕組みが必要である。特に、職員の高齢化が進む中で若手教員の育成が急務である。 ・授業参観週間は実施できなかったが、公開授業を実施する中で1人1台端末の活用が活発化し、授業改善に役立っていた。年間を通じて授業改善の計画が必要である。 ・教育実習生への指導は、効率化や負担軽減はあまりできなかったものの、採用試験合格者が出るなど効果的な指導は実施できていた。今後はより効果的な指導を目指す必要がある。 ・研究紀要は、職員の協力により順調に作成できた。デジタル化を行うかどうかの検討が必要である。	A	・ICT機器の活用をぜひ積極的にお願したい。特に一人一台端末が配備されたと聞いているので、家庭への持ち帰りも認めていただきたい。
	情報課	GIGAスクール構想への対応 1 教育の情報化の推進 2 学校ホームページの内容充実	ICT機器利用促進のための研修会やマニュアル作成を3件以上実施する。 ICT環境の整備・改善を年間5件以上実施する。 学校ホームページを月4回以上の頻度で更新する。	統合型校務支援システムへのスムーズな運用・電子黒板や生徒用タブレット端末の効果的な活用、その他教育の情報化の推進を目指し、研修会の実施やマニュアル作成を3件以上実施する。 校内のネットワーク環境の効果的な活用を目指し、不具合の改善や、古い規格のネットワーク機器の更新など校内で実施できる整備や改善に取り組む。 ホームページのコンテンツごとに担当者を配置することで更新頻度を高め、保護者・地域・同窓会・中学生への情報公開を活発化し、内容の充実を図る。	A A B	A	・マニュアル作成や研修会の実施ができ、目標は達成したものの、今年度の大きな環境変化に追いついていないため、今後も継続的に取り組む必要がある。 ・事務室の協力もあり、ICT環境の整備・改善を実施できた。校内LANが使えるようになればより便利になる部屋があるので開通について検討する必要がある。 ・ホームページの更新回数は目標を超えたものの、広報ツールとしての効果が不十分であった。広報庶務課との連携を強化し、効果的・効率的な更新を行う必要がある。	A	・学校HPやSNSを活用した情報発信について、今後は更に魅力的なものとなるよう改善に努めて欲しい。
学年部	一学年	・出席率 99.5% ・家庭学習時間 1日平均120分以上 ・1月進研模試 総合3教科偏差値 50以上140名以上	授業規律の確立と基礎学力の定着 基本的生活習慣の定着 将来を見据えた進路選択 生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	黙想の励行、チャイムからチャイムまでの授業を実施することで授業規律を確立していく。 生徒の実態に応じた「わかる授業」、主体的・対話的な授業実践をすることも朝テスト等を活用して個々の基礎学力の定着と向上を図る。 時間の厳守、挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導等を通して規範意識を身につけさせる。 3年間を見据えた指導を展開していく。特に学年当初の初期指導を通して集団としての社会性を養う。 キャリア教育課と連携を図り、サマースクールやウィンタースクール等を通してより高みを目指した進路希望を持たせられるよう指導する。 教育課程説明会や進路講演会、学年通信等を活用して生徒・保護者に適切な進路選択のための情報提供を行う。 教育活動全般を通して人権意識の高揚につとめ、適切な人間関係の構築を図る。	A B A B A A	A	・学年の構想では2学年を「実力養成」の時期と位置づけている。また、学校では中核学年となるため、本年の反省に基づき以下を課題とし学年を経営していく。 ・基本的な生活様式（南高スタンダード）の徹底 ・主体的に行動できる生徒の育成 ・リーダーシップ、フォロワーシップの育成 ・進路意識の醸成と基礎学力の定着 いずれも、ベースとなるのは基本的な生活様式である。3年生を支え、1年生の良き模範となるよう指導を徹底する。主体的な態度をきちんと定義づけた上で育成に必要な指導を全ての教育活動で実施したい。学校行事を点としてではなく、3年生まで連続した線として捉え、主体性、リーダーシップ、フォロワーシップを育成する機会としたい。進路目標を明確にすることで学習へのモチベーションを上げさせたい。一方で基礎学力を定着させることにより、高い進路目標を設定させる。	A	・1年時はこれからの高校生活において今後の人生の方向性を決める極めて重要な時期である。是非とも厳しい中にも生徒の気持ちに寄り添った指導をお願いしたい。
	二学年	・出席率 99.0% ・家庭学習時間 1日平均140分以上 ・1月進研模試 総合3教科偏差値 50以上120名以上	習熟度別クラス編成による学力等の育成 学校の中核としての人材の育成 具体的進路目標の設定 生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	自ら学習する意欲を高めることで、家庭学習時間の確保に努めさせる。 習熟度別授業により生徒の能力に応じた授業の実践により、個々の基礎学力の定着と向上を図る。 学年としてリーダーシップを発揮できるようフォロワーの指導を強化する。 定期的な学年集会で3年次に活躍できるリーダーを育成する。 進路部と連携し、適切な進路情報の提供と進路意識の高揚に努める。 各学期に進路面談を行い、適切な進路選択と進路目標の早期設定を促す。 模擬試験に対する取り組みを充実させるとともに、結果を分析し、適切な進路指導を実践する。 学校生活全般を通して、校訓の精神を自覚させるとともに、人権意識の高揚につとめる。	A A B B A A B A	A	・課題の量、質ともに成績層に応じた学習指導が必要。全体的には課題等で学習の“量”については増加傾向にあるが、今後は“質”への転換を図っていかねなければならない。ライフレポートや限界突破ノートを活用して学習の量、質ともに可視化することで意識を高めていく。 ・学校行事を通して、学校全体を牽引していくリーダーを育成すると同時に、リーダーをサポートし組織強化につなげられるフォロワー集団を育成するための指導が必要である。 ・早期に希望進路を確定させ、目標に応じた努力を始めさせる。具体的には、課外の受講の奨励や自己表現力の育成で、幅広い入試形態に対応できるような指導を進めていく。 ・あらゆる面において与えられたことだけをやるのではなく、自らが考えて行動できるよう自走力を育成していかなければならない。	A	・新型コロナウイルス感染者を出すことなくコロナ禍における修学旅行を実現させたことを評価している。学校の中核として学校行事の運営を行う学年であるが、コロナ禍による制約があったと思われるので、ぜひ良き伝統を先輩達に伝えて欲しい。

部分掌・学年		評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題		
学年部	三学年	・出席率 99.0% ・家庭学習時間 1日平均160分以上 ・進路目標 共通テスト受験率 85% うち二次受験 70% 国公立大進学率40%以上 四大進学率80%以上	進路別クラス編成による学力の伸長	生徒の能力に応じて授業内容を精選し、授業展開を工夫して生徒が積極的に学習活動できる指導を行う。 ICTを利用して効率的に基礎力の定着を図るとともに、他者と協働した探究的な学びの機会を設定する。	A	A	①欠席連絡フォームを導入して以来、安易な欠席が目立つようになった。 ・欠席連絡システムの改善。保護者のみが入力できるようにできないか。 ・出席停止の認定を厳密にする。熱があるときは病院へ行き領収書で確認、そうでないときは欠席とするなどの学校全体のルールをつくる。 ②推薦合格者で欠席を重ねたり自己中心的な振る舞いをする例が見られた。 ・推薦を願い出る際に、推薦されることの意味を十分理解させるとともに、合格後の欠席日数が増えるなどした生徒について指導の規定をつくり周知させる。 ・コロナ禍の中でも、推薦入試（指定校推薦入試）で合格した生徒の保護者向けに説明会を行う。 ③一学期のうちに、志望理由や自己PRの指導をより効果的に行う。クロムブックで各自の希望進路をその場で調べさせながら「自己分析（進路研究編）」を行うようにすべきである。そのためにもまず志望理由書の作例を参考に、求められているレベルを理解させてからすすめる方がよい。		
			自主・創造・親愛の精神と愛校心の育成	自主的に考えて計画的に行動する習慣を定着させる。様々な場面で礼節をわきまえた振る舞いができるよう指導する。 学校行事をとおして学校を一つにまとめるリーダーシップを養うとともに、集団におけるフォロワーの重要性を実感させる。	B A				
			進路目標の実現	進路部との連携を強めて適切な進路情報を提供し、個別面談を重視する。また自学ができる学年の雰囲気を作っていく。 志望理由や自己PRを効果的に表現できるよう指導するとともに、小論文指導や面接指導を充実させる。	A B				
			生徒・保護者・地域の期待に応える教育実践	課題を抱えた生徒との関わりや保護者との連携を密にする。 学校内外にかかわらず、周りの人を思い遣る心を育て、差別やいじめを許さない態度を身に付けさせ社会に出る基盤をつくる。	A A				
			1 適正な事務処理	財務会計事務の適正な処理	職員間の相互チェックを徹底し、適正な事務処理に努める。	A		A	A
				2 予算の有効活用	本校の学校運営方針に沿った、効果的・効率的な予算執行	A			

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	<ul style="list-style-type: none"> 前年度を上回る大学入試結果を出しており、高く評価している。放課後の質問対応や休日の自習室開放等、生徒の希望進路表現のため、先生方と生徒達が一体となっている姿を多く見せていただいた。この姿が今の小倉南高の躍進の原動力だと強く感じた。次年度以降もこの形をぜひ続けていただきたい。
A	<ul style="list-style-type: none"> 適切な業務遂行がなされていると思われる。

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・新学習指導要領および教育改革への円滑な対応を図るため、カリキュラム・マネジメントを推進する。
- ・一人一台端末の導入に伴い、今までよりも更にICTの活用を推進し、授業改善に生かしていく。
- ・高みを目指す自己実現を図る主体的な姿勢の育成により、着実な進路実績に結びつける。
- ・教職員の組織力を高め、個別最適化となる教育活動の充実を図る。
- ・働き方改革を推進し、持続可能な教育活動の在り方を工夫する。

評価項目以外のものに関する意見	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は教職員の超過勤務の削減を図り、教育活動のICT化や効率化に力を入れていただき持続可能な教育活動となるよう工夫をして欲しい。